

皇學館

学園報 第63号

発行・編集
学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学 大学院 専攻科 TEL 516-8555
文学部 教育学部 三重県伊勢市神田久志本町1704
現代日本社会学部 TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704
高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
[高校] TEL 516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] TEL 516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

注目記事

- 2面 保護者対象就職講演会・説明会を開催
- 3面 オープンキャンパス2016を実施
- 4・5面 皇學館PICKUP
——クラブ活動(大学)・国際交流(中学校)
- 6面(高校・中学校) 柔道・1年 宮本やほさんが全国大会へ「協調性」を学んだ、ともやま研修 ほか
- 7面 学校法人皇學館・教学振興会 決算報告
- 8面 平成28年度チャレンジプロジェクト 公開プレゼン

連載

- 2面 皇學館人物列伝② 青木紀元
- 3面 リレーエッセイ
岡田 登(国史学科教授)



気さくな様子で学生の質問に答える安倍首相。教員をめざす学生に対しては「教員採用試験は今夏が勝負ですね」と励ました。参加した学生は「学生の言葉を受け止めてくれるおおらかさを感じた」と感激していた



安倍首相を出迎える
佐古理事長と清水学長

今回の懇談には各学部へ募集をかけ集まった男子学生三名と女子学生七名が参加。まずはそれぞれの学生が自己紹介をした。安倍首相の口から「将来の夢」について各自が語ると、首相は一人ひとりの答えに対して感想などを述べ、社会科教師をめざす学生には「子どもたちに正しい日本の歴史を伝えてくださ

学生の夢を応援

と、佐古一冽理事長、清水潔学長らが迎え、食堂のある倉陵会館へと案内した。食堂へ続く通路に

大歓声に包まれた食堂

安倍首相の来学は今回が二度目。首相の祖父にあたる岸信介元内閣総理大臣は本学の第二代総長を十九年間務め、本学とは縁が深い。

は学生や教職員が詰めかけ、列になって出迎えた。一時、盛り上がった学生が通路にあふれ、前へ進めないほどとなったが、首相はルートを遠回りしてハイタッチや握手を求める学生らに快く対応。その後、普段学生が使う食券機で食券を買い、食堂へ入った。



学生にハイタッチをする安倍首相

安倍首相が学生らと懇談

い」と励ました。また女子学生が社会で活躍するという夢も応援した。その後、学生から首相に対して質問が相次いだ。「伊勢志摩サミットはどうでしたか」という問いに対して首相は「天気が心配されていたが、内宮・宇治橋前で各国首脳を迎えるときに晴れ間がのぞき、正宮前で写真を撮る瞬間に光が差した。その瞬間、サミットの成功を確信した。伊勢神宮には全員が感激していた」と語った。また神道学科の学生が現在、お祓いなどの神事を使用する麻の国内生産が減少し、中国など外国産に代わっている問題について質問

すると「妻(昭恵夫人)も関心を持って取り組んでいる。麻は日本古来の文化。麻が日本の限られた地域でしか生産できないという課題の解決に取り組んでいきたい」と話した。「人の心を掴むにはどうすればいいか」との問いに対しては「誠心誠意で接すること」と回答。休日の過ごし方について尋ねられると「DVD鑑賞やランニングなど、仕

「途切れない支援」を推進

鈴鹿市と本学が連携協定を締結



協定書を手に記念撮影に応じる末松則子鈴鹿市長(左)と清水学長

本学と鈴鹿市では子育て支援の充実および教育・保育環境の向上による途切れない支援を推進すべく、相互の資源を活用した連携協定を締結。八月十日、連携協定締結式が鈴鹿市役所庁議室で執り行われ、次の四項目が連携・協力事項として取り決められた。

①学校教育活動・保育活動等における支援に関すること。②インターンシップ等就業体験等を通じ

た人材育成に関すること。③学生の就職に関する情報提供。④前各号に掲げるもののほか、目的を達成するために必要と認められること。

締結式で鈴鹿市は、学力向上や幼保・小学校の接続期の支援といった課題に対応しながら安心安全な所・園・学校を作るには教育と福祉の連携が欠かせないとして、「皇學館大学は福祉と教育を兼ね備えた県内唯一の大学

であり、多くの教職員を本市にも輩出している」と協定締結に至った経緯を説明した。清水学長も「鈴鹿市の子ども子育て支援策の課題に、本学の教育力や知的資源をもって貢献すると共に、学生の研究教育実践活動の場を提供していただき、お互いの発展に資する協定」と連携の意義を語った。本協定の有効期間は一年間。ただし、本協定の有効期間満了の日の三十日前までに両者から何らかの申し出がない場合は同一内容でさらに一年間更新し、その後も同様とする。

当日の滞在時間は三十分と短時間だったが、学生にとっては濃密で印象深い時間になったようだ。教育学科三年の佐々木果人君は「質問に対して、学生でも理解できる

一面を明かした。首相の気さくな人柄もあり、終始笑顔の絶えない和やかな場となった。

また、首相は大学生テレビ局の取材にも応じ、「教職員志望の方が多いと聞いた。未来の子どものために頑張っている」と本学学生へエールをおくった。

第2回 皇學館大学 地(知)の拠点整備事業 公開シンポジウム

伊勢志摩で共に暮らし続けることのミライをかんがえようシンポジウム Vol.2

開催日時●平成28年9月4日(日) 13時30分開始・16時30分終了

会場●志摩市磯部生涯学習センター 多目的ホール

志摩市磯部町迫間878番地9 TEL 0599-555-0142/0246

参加無料・事前申し込み不要 一般の方もぜひご参加ください。

お問合せ●皇學館大学 企画部 地域連携推進室 TEL 0596-22-86335

<http://coc.kogakkan-u.ac.jp>

倉田山 春秋

先般、文部科学大臣補佐官を務める鈴木寛氏の講演を聞く機会があった。国では、今後、不確実性の時代を生き抜く力を身につけた人の養成が急務という捉え方をしていることが分かった。これまでは、例えばものづくりにという一定の価値観に基づいて生産性をあげるとか、ルールに則った動作ができるということに価値が置かれてきた。そのためPDCAという振り返りによる生産性向上がめざされたわけだが、これはルーチン(繰り返しの)業界には向いても教育の現場にはそぐわないという。そういえば昨年末に野村総合研究所が日本の労働人口の四九%が人工知能やロボット等で代替可能になるというレポートを発表して話題になった。抽象的な概念を整理・創出するための知識が要求される職業、他者との協調や、他者の理解、説得、ネゴエーション、サービス志向性が求められる職業が人工知能には代替困難だという(野村総研HP)では、私どもは何を学ぶべきか。鈴木氏は歴史こそ最も重要な学びの対象だという。想定外の時代を生き抜いてきた人々の生き様を知ることこそ重要だということなのである。

一緒に学ぶ姿勢でサポートを

保護者対象就職講演会・説明会を開催

七月十六日、本学六号館において尊の会・保護者会主催の「保護者対象就職講演会・説明会」が行われ、一五二名の保護者に出席いただいた。

一部構成で実施された「動を支える親子コーチング同会。第一部は「就職活動」の活用方法」をテーマ



現在の学生を取り巻く就職活動状況の説明を受け、うなずき、ときにはメモをとるなど熱心に講師の話を聞く保護者の方々

に、キャリア・ソリューションリストの本田勝裕氏が講演した。その中で本

田氏は「保護者は子と一緒に学ぶコーチであってほしい」と提言。答えを無理に出すのではなく、一緒に考え、ともに答えを創ってほしいと説いた。そして、「等身大のモデルであろう」とアドバイス。保護者自身が

実体験をもとに感じたことなど、広告やウェブでは語られないリアルな情報を伝えてほしいと話した。

第二部は進路別就職説明会が実施され、出席者は神社界、教育界、企業・官公庁と三つの教室に分

かれ担当者の話に耳を傾けた。

参加した保護者からは「自分たちの就職した頃はバブル期であったため、今の時代に合ったアドバイスの仕方が難しく感じられる。今日参加したことで親として何をすべきか考えるきっかけとなった」講演会では目からウロコの内容も多く、興味深かった。親も共に歩まねばと考えさせられた」とにかく子どもと話をし、子どもの話を聞くことが大事だと思った。

この夏休みには人生の先輩として子どもと向き合おうと思う「企業も、神社も、教員も、必要とされるもの(求められるもの)は同じだと感じた」「進路別説明会では現実の課題が多く出されていて、参考になった」などの感想が聞かれ、非常に有意義な時間となったようだ。

また、「複数の進路別説明会に参加できるように工夫してほしい」「レジュメを配布してほしい」「せっかくなので、保護者等のご要望も寄せられた。本学では次年度以降これらのご意見をできる限り反映させ、より充実した会をめざしていく。

中高合同で神宮参拝



玉砂利を踏みしめ、厳かに進む生徒たち

六月十七日、月次祭にあわせ中学校、高校の神宮参拝が行われた。厳肅な雰囲気の中、宇治橋から内宮正宮まで玉砂利の参道を静かに進み、正殿で無事に参拝を済ませることができた生徒たち。参拝の後、高校一年生は総合的な学習の時間として三グループに分かれ、荒祭宮、風日祈宮、神宮文庫を見学した。見学場所で見

生の話に注意深く耳を傾け、またノートにメモをとる生徒もおり、その真剣な姿が印象的だった。

神宮文庫を見学した高校一年七組の前田海輝君は「神宮文庫にはさまざまな本があり、国宝の書物や古事記上巻などの重要文化財が保管されていることに驚いた」と感想を述べた。荒祭宮を参拝した同一年二組の岡田早瀬君は「荒祭宮は天照大御神の荒御魂が祭られていて内宮に所属する十の別宮のうち最も位が高いことがわかった」と新たに得た知識を興奮気味に語り、「帰り道で偶然月次祭の奉幣の儀に向かう長い行列を見



厳肅な気持ちで正宮への階段を上る

ることができた。厳かな雰囲気の中でさまざまな衣装を纏った方々が正宮に向けて移動しているところを見学できたのでよかった」と感激した様子で話した。中学校一年A組の小内裕貴君は「日頃の食など私たちに自然の恵みを常に与えてくださる神様に感謝の気持ちを込めて参拝した」と満足そうに語った。

皇 學 館 | 人物列伝 | 28

青木 紀元 (あおき きげん)



大正3年福井県生。昭和10年神宮皇學館本科卒業。昭和20年神宮皇學館大學卒業。昭和23年福井師範学校教官。昭和41年福井大学教育学部教授。昭和55年群馬県立女子大学教授。昭和62年勲三等旭日中綬章。1914~2005。

祝詞研究の第一人者

神宮皇學館大學学部第一回卒業生は祭祀専攻三名、古典専攻一名の計四名である。第二回の五十四名と比較するといかにも少ない。その理由を古典専攻唯一の卒業生である青木紀元に尋ねたことがある。同級生たちは召集されて戦地へ赴いたが年長の青木だけが残ったというのがその答えであった。

青木紀元は昭和十年神宮皇學館本科第一部(後の国漢科)を卒業し、統治下の台湾で教師となった。しかし、神宮皇學館が神宮皇學館大學へ昇格するにあたり、学問への志を果たすべく学部へ入学。戦後は、郷里の福井大学で教鞭をとった。

青木は卒業生の会誌『館友』の再刊において古典講読や国語学講読で祝詞を

百号記念号に「ねこやなぎ」の題で文章を寄せているが、神宮皇學館の歌の会「五更会」にまつわる亡くなった友人たちの思い出の記で、やはり若いころのことが印象深いということであろう。

ちなみに五更は午後七時から午前五時までは五等分した最後の時間で午前三時から午前五時までは、夜明け前を意味している。

その学問はほぼ徹底して延喜式祝詞を対象にしたものであった。

かつて祝詞のテキストは神宮皇學館教授を務めた次田潤の『祝詞新講』を主としたが、昭和五十年に青木のテキストが刊行されて以来、皇學館大学において古典講読や国語学講読で祝詞を

神宮初夏

日の暮れに詣づる心すがすがし
齋庭にともるみあかしの色

(「雪齋」昭和九年)

(国文学科教授 齋藤 平)

『みんなの修学旅行 伊勢志摩』 『六国史——日本書紀に始まる古代の「正史」』 発刊



『事前学習に役立つ みんなの修学旅行 伊勢志摩』(出版・小峰書店)
大型本：44頁 2700円(税別)



『六国史——日本書紀に始まる古代の「正史」』(出版・中央公論社)
新書版：266頁 820円(税別)

本学櫻井治男特別教授監修「事前学習に役立つみんなの修学旅行 伊勢志摩」遠藤慶太研究開発センター准教授著『六国史——日本書紀に始まる古代の「正史」』の二冊が相次いで刊行された。

『みんなの修学旅行 伊

勢志摩』は小学校高学年から中学生を対象に事前学習に活用できるよう編まれたもので、参拝作法や祀られている神様、神話、神宮の歴史、式年遷宮を始めとする祭祀等について、わかりやすく解説されている。犬だけで

なく、ブタがお伊勢まいりをしたという記録も残っている」といった面白いトリビアやグルメ・お土産情報も紹介されており、大人が読んでも楽しめる伊勢の手引書だ。

『六国史』は奈良時代から平安にかけて朝廷が編纂した歴史書「六国史」

人事異動

(内は旧職)

大 学

【解 任】 平成28年6月30日付

法人本部企画部主査 大橋 結香

法人本部総務部書記 森谷 香里

法人本部財務部書記補 大津 政紀

【配 置 換】 平成28年7月1日付

総務部主査 大橋 結香

研究開発推進センター(事務室)書記 森谷 香里

学生支援部書記補

大津 政紀

企画部事務嘱託 鈴木 千浩

【兼 務】 平成28年7月1日付

法人本部総務部主査 大橋 結香

法人本部企画部事務嘱託 鈴木 千浩

【配 置 換】 平成28年7月1日付

学校事務部学校事務室主事 橋本 恵子

学生支援部主事

高等学校

学校事務部学校事務室主事 橋本 恵子

学んだ者はほぼそのテキストによって教育されたといっても過言ではない。

青木本人は「思考が幼い」と評する

けれども、祝詞に関する論考の中でも特に有名なものが、天津罪と国津罪の差異を明らかにしたものである。天津罪は農耕における社会的な妨害罪、国津罪は個人的な傷害罪という明瞭な説である(『祝詞古伝承の研究』)。

一方で、青木による注釈が「五更」の発行元となっていた右文書院から刊行されたのは平成十二年のいわば晩年であった。

◆お◆知◆ら◆せ◆ 中・高・大合同 皇學館 DAY



開催 9/19(月・祝)
三重県文化会館

皇學館高等学校吹奏楽部 第9回 定期演奏会も同時開催！

学校相談会

学校相談ブース(中学校・高等学校・大学)

時 間◆14:00~16:00

場 所◆大ホール ロビー(予定)

皇學館高等学校吹奏楽部 第9回 定期演奏会

時 間◆16:00~(15:30開場・19:00終了予定)

場 所◆大ホール

入場料◆500円 ※チケット発売に関しては高校HPにてご確認ください。

問合せ◆皇學館大学 企画部 TEL 0596-22-8600



トレードマークであるピンク色のTシャツを身に付け、未来の後輩たちを温かく迎えた学生スタッフ

学生スタッフに好印象 オープンキャンパス2016

六月十二日に幕開けた平成二十八年度オープンキャンパス。その第二回となる「学校見学DAY」が七月九日に「学び体験DAY」が翌十日に開催され、のべ六八二名が訪れる盛況ぶりとなった。

七月九日の「学校見学DAY」は学生スタッフによるキャンパスツアー、個別相談コーナー、図書館や神道博物館、学生寮等の施設見学を中心に行われた。個別相談は記念館を会場にそれぞれの学科の先生や職員がカリキュラムや就職、入試などあらゆる疑問や悩みに回答。参加者からは「キャンパスツアーで学生スタッフが気さくに話してくれたので大学のことがよくわかり、イメー



ジが明確になった」「入試説明が丁寧で非常に参考になった」などの感想が寄せられた。翌十日の「学び体験DAY」は文字通り各学科で何を学べるのか実際に感じてもらうと、模擬講義や体験型プログラムを実施。神道学科は「神道の作法(祭式)体験」、国文学科は「文学散歩の楽しみ」、国史学科は「古文書で歴史体験」、コミュニケーション学科は「ゲームでコミュニケーション」、現代日本社会学科は「NIPPONを動かそう会議」、教育学科はコース別に「教育ワークショップ」を開催し、参加者の興味を引いていた。アンケートでも「衣装の着付けや祭祀について身をもって体験できて非常に良かった」「歴史好きが歴史を学ぶのには最高の大学だと思った。自然豊かな環境も気に入った」「大学ならではの学びを体感することができた」とすこぶる高評価で、キャンパスライフを満喫していただいたようだ。



記念館内で行われた茶の湯体験

さらに、「学生スタッフのきめ細やかな対応に、非常に好感が持てた」「案内の学生が生き生きとしていたよかったです。いい先輩のいる大学だと感じた」等、学生スタッフに好印象を持ったとの声が例年にも増して聞かれた。なお、十月二十九日(土)には「大学祭同時開催DAY」が予定されている。本学の学風を知る絶好の機会でもあるので、一人でも多くの方に足をお運びいただきたい。

皇中生が大学講義を受講

七月六日、「ミニオープンキャンパスin皇學館大学」と題し、皇學館中学三年生を対象に大学見学を実施した。午前は三つの班に分かれ、コミュニケーション専門演習、社会臨床実習の授業に参加させていただいた。学食体験を含み、午後からは施設体験と学生との交流会を開催。施設見学ではゼミ室や階段式の大教室、図書館、博物館など中学校とは異なる環境に生徒から驚きの声が多く

聞かれた。教育学部四年生との交流会では、大学の授業や生活に関する疑問に答えてもらったほか、中学生に向けて今後のアドバイスもしてもらった。新たな取り組みではあったが、大学と連携しながら「大学の授業・学校生活」について深く学習させることができた。以下に、参加者の感想を紹介する。

◆図書館の本の多さや学
◇
◇
◇
第三学年主任 吉田康人



大学の授業スタイルに真面目に取り組む生徒たち

◆疑問点を聞くだけの中
学生と違い、大学生はそ
う考えた理由、根拠を話
すなど意見の出し方がま
ったく違った。自分たち
が大学生になったときの
ことを想像できた。

寮生同士の親睦を深めるため毎年開催される寮祭が、六月十九日、盛大に行われた。今年とくに力を入れたのは、新企画「きもだめし&キャンドル」イベントだ。この催しではルフト上に待機した二年生がなぞなぞやジェスチャーあてなどさまざまなゲームを用意。これらのお題をクリアした一年生たちがゴールの



キャンドルの灯は 絆と成功の証

精華寮・寮祭幹事
山田 大
(教育学科2年)

記念講堂前広場で200個以上のキャンドルを囲み、マイマ임을踊る参加者たち

後に火を灯し、輪になって踊る趣向とした。結果は大成！一、二年生みんなが本当に楽しそうにしている、とても嬉しかった。準備期間中、ときには各パートリーダーと意見が合わず大変なこともあったが、仲間と支え合い、協力しながら頑張ることができた。寮祭を通じて寮生全員の絆が深まったと思う。来年も新しい幹事を中心にみんなが協力して、精華寮、貞明寮の伝統を築いていってくれることを心から願う。

リレーエッセイ

土の下に歴史を探り、 百聞は一見に如かずを実践する

皇學館大学文学部教授 岡田 登 皇學館大学大学院文学研究科 国史学専攻博士課程中退



私が、土の下に埋もれた石器や土器に興味を持ったのは、小学校二年の時、昭和三十四年の伊勢湾台風後、河川堤防修築のため土取りの始まった四日市市小古曾町の五百山遺跡で、父や叔父や二兄に連れられて、弥生土器片を採集したことによる。その後、伊勢国分寺跡を中心に四日市や鈴鹿市の丘陵地で遺物採集にあたり、多くの遺物や遺跡を発見した。皇學館大学入学後、オリエンテーション(宇治の修養団道場)に向かうバスから、中村町の土取崖面に竪穴住居と思しき掘り込み土層を見付け、その帰り道、弥生土器や須恵器片を採集した。部活は考古学研究会(本年、創部五十周年)に属し、個人的にも土に埋もれた歴史を明らかにすべく、伊勢市を主とする地域の遺跡調査を続けている。近鉄小俣駅近くでは旧石器時代県下三番目の規模のマ田遺跡、津市では同時代の高茶屋四ツ野B遺跡、五十鈴川上流では縄文時代の遺跡二十四力所、鈴鹿市では県下初の弥生時代の玉作り遺物、伊勢市倭町では弥生・平安時代の隠

岡遺跡、近鉄五十鈴川駅南の桶子遺跡では弥生時代終末期の銅鐙片、津市垂水では古墳時代の埴輪窯、同市殿村では古代の駅家跡(市村駅)に比定される本馬領遺跡を発見したことは、特に心に残る。大学の職務では附置研究所の史料編纂所から学部国史学科に移り、毎年わが国古代史の舞台である飛鳥や平城京、難波宮・大坂城、平安京の史跡や社寺、壬申の乱や天下分け目の合戦の関が原、織田信長の居館岐阜城、明治の歴史的建築を集めた博物館明治村などを学生と探訪する「百聞は一見に如かず」を実践した。また、平成十七年から二十一年にかけて、江戸時代伊勢参宮をした人々の想いや痕跡をたどる江戸の旅を体験することを目的に、学生や公募した人々とともに、桑名・関・上野・名張・奈良県神末村・愛知県豊橋市から、旧街道を二泊ないし三泊して歩いたことは、皇學館大学が伊勢にあることの意義を、身をもって確認することができたと考えている。

日米の文化の違いを学ぶ

国際理解・国際交流プログラムに参加

3年A組 中 村 真 季

今回、国際理解・国際交流プログラム*に参加して、アメリカ人女性の先生に英語でアメリカと日本の文化の違いや学校や塾の特色について教えていただきました。

アメリカには日本と違い「飛び級」制度があることや、制服ではなく私服で登校する点、お菓子を食えることができる時間があるなど、日本にはないルールを知り驚きました。先生の話のうち、英語の部分でよく理解できないところもあったけれど、これからはもっと英語ができるように頑張りたいと思いました。

*伊勢志摩サミット開催を契機に、次代を担う子どもたちにサミット参加国について理解や交流を深めてもらおうと、「伊勢志摩サミット三重県民会議」が実施しているプログラム。平成27年度の実施で大変好評を得たため、今年度も継続して行われている。



国際交流 | 中学校

三重県、日本の文化や自然を大切に

国際メディアセンターを見学

3年B組 江 藤 朋 華

今回、国際メディアセンターを見学して、三重県のすばらしさを改めて感じました。三重県で作られた食料品や製品が館内に展示されていて、とても嬉しい気持ちになりました。また実際に伊勢志摩サミットのとき、G7の大統領や首相の方々が議論した机や椅子、国旗などを間近で見ることができ、貴重な機会を得ることができました。

伊勢の地で学ぶ皇學館の生徒として、これからも三重県、さらに日本の文化や自然を大切にしていきたいと思います。



タイの学校とSkype交流

教務部部長 小 林 誠 治

現在中学校では、『グローバル人材育成プログラム』の一つとしてSkypeなどを介した交流プログラムを実施しています。全校生徒全員を対象に、現在は姉妹校ローズヒル校(オーストラリア)やタイの学校との交流、またWeb会議システムを用いたバーチャル英会話教室(ネイティブ講師によるオンライン英会話)を中心に展開していますが、今回はそのうちの「タイの学校との交流」をご紹介します。

昨年度末、公益財団法人国際センターの『インターネット・フレンドシップ校交流事業』というプログラムに応募し、今年度4月～6月にかけてマッチングを行っていただいた結果、タイ・チェンマイにある「Hodpittayakom School」を本校の交流校として紹介いただきました。互いの学校同士で覚書を書いた後、6月30日に2年生を対象に第1回交流を実施。緊張の中で始まりましたが、お互いに自己紹介をしたり質問をし合ったりと大いに盛り上がり、また、スポーツや食べ物を通して互いの文化の違いも学びました。単純に、遠く離れた国にいる同年代の生徒とリアルタイムで交流ができる楽しさを感じるとともに、お互い母語ではない英語を共通言語として意思疎通ができる素晴らしい喜びを大いに感じたようです。その後7月に入ってから、1年生、3年生もセッションをスタートし、全講座での実施を進めています。また、今後は姉妹校ローズヒル校も含めた3校での同時交流も計画していきます。

このようなSkype交流等を通して、生徒の英語によるコミュニケーションスキルの向上や異文化理解をさらに進めていきたいと思います。生徒たちの学習の基本である日々の授業の中に、こうしたより実践的なコミュニケーションの場をできる限り多く取り込み、英語が好きな生徒も苦手な生徒も、すべての生徒たちのモチベーションアップにつなげていきたいと思います。



10月に2泊3日で English Camp 2016 を実施

さまざまな活動を通じて実践的な英語や他国の文化に触れ、積極的に英語でコミュニケーションを図る態度を養うことを目的に、10月5日(水)から7日(金)の日程で愛知県豊田市「旭高原少年自然の家」にてイングリッシュキャンプを行います。キャンプでは、ネイティブ講師との英会話や文化交流、さまざまなアクティビティなど、3日間オールイングリッシュで過ごします。その模様は次々号にてお知らせいたします。お楽しみに！

平成29年度 生徒募集要項

皇學館高等学校

募集人数	340名(6年制内部進学者を含む)
入学資格	中学卒業者および平成29年3月卒業見込みの者
募集コース	●進学コース ●特別進学コース ※詳細はHPをご確認ください
出願期間	平成29年1月10日(火)～1月17日(火) 午前9時～午後3時(土日および祝日は除く)
出願手続	①入学願書(本校所定の用紙) ②学習の記録(本校所定の用紙) ③受検料 12,000円(本校所定の用紙(郵便振替)にて、ゆうちょ銀行窓口で、お納めください。コンビニエンスストアでの納入については「受検料コンビニ支払い」を参照してください)
入学試験	日 時 平成29年1月30日(月) 午前9時～
	教 科 国語、数学、英語、理科、社会 ※詳細はHPをご確認ください
	方 式 マークシート方式
試験会場	試 験 (本会場) 皇學館高等学校
	会 場 (津会場) 大原簿記医療観光専門学校(津駅西口より徒歩1分)
合格発表	平成29年2月6日(月)に合格通知を各中学校と本人宛に発送します (電話によるお問い合わせには、お答えできません)
入学手続	平成29年2月16日(木) 午後3時までに、入学金45,000円を納入してください(本校所定の用紙にて、必ず銀行窓口でお納めください)

特 典

皇學館大学への進学希望者には、附属高校特別推薦枠・入学金半額免除などの特典があります。

推薦及び特別奨学生について

- ①特別進学コース・進学コース、それぞれのコースに推薦制度(専願)があります。
- ②所属中学校長の推薦書により、学業・人物優秀と認められる生徒に対しては、学力特別奨学生、また顕著な競技実績をもつと同時に、本校の授業内容を習得できる学力を有し、人物優秀な生徒に対しては、スポーツ・芸術推薦およびスポーツ・芸術特別奨学生の制度があります。

オープンスクール

本校では、下記の通り学校見学会を実施しています。また、下記日程以外の見学会も可能です。詳しくはお問い合わせ下さい。

- 平成28年
第1回 9月3日(土)・4日(日)
※4日(日)は皇學館中学校との合同開催
- 第2回 平成28年10月2日(日)
- 第3回 平成28年11月13日(日)

内容 ●学校説明および校舎見学、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート など
持物 ●筆記用具、スリッパ

- ◆参加者の皆さんには学生食堂での昼食を準備しています。(第1回～第3回)
- ◆校舎見学後のクラブ活動の見学も承っています。
- ◆保護者の方々もご参加いただけます。
- ◆団体見学も受け付けています。

6年一貫教育 皇學館中学校

	A日程		B日程
	一 般	専 願	
募集人数	A日程(一般・専願)・B日程合わせて 70名		
入学資格	平成29年 3 月小学校卒業見込みの児童(男女共)		
出願手続	● 入学志願票(本校所定の用紙) ● 受験料 12,000円(ゆうちょ銀行かコンビニエンスストアでお納めください)		
出願期間	平成28年 12月12日(月)～1月6日(金) 午前 9 時～午後 3 時(土曜日は正午まで) ※12月18日(日)・23日(祝)～25日(日)・28日(水)～1 月 5 日(木)を除く ※郵送の場合は 1 月 6 日(金) 午後 3 時必着とします	平成29年 1月23日(月)～2月1日(水) 午前 9 時～午後 3 時 ※ 1 月 28 日(土)・29 日(日)を除く ※郵送の場合は 2 月 1 日(水) 午後 3 時必着とします	
出願方法	【持参する場合】 出願書類を取りそろえ、所定の封筒に入れて学校事務室へ持参 【郵送する場合】 出願書類と受験票返信用封筒(住所氏名の記入、返信切手)		
試験日時	平成29年 1 月 8 日(日) 午前 9 時～		平成29年 2 月 4 日(土) 午前 9 時～
試験教科	国語、算数、理科、社会	国語、算数、面接	国語、算数
合否発表	平成29年 1 月 9 日(月・祝) 発送 郵送による(電話によるお問い合わせにはお答えできません)		平成29年 2 月 6 日(月) 発送
入学手続	入学金 45,000円 + 教育充実費 200,000円 = 合計 245,000円 (所定の用紙にて銀行窓口でお納めください)		
学 費 (月額)	● 授業料 23,000円 ● 教育充実費 8,500円 ● その他 4,300円(保護者会費、後援会費、校友会費、図書費)		

特別奨学生制度

人物優秀で、次のいずれかの基準を満たす者から選考し、教育充実費(入学時)、及び教育充実費の納付相当額を授与します。

- ①小学校長または学習塾長から学業成績が特に優秀であると推薦され、入学試験の成績が優秀な者(専願に限りです)
※小学校時の英語学習に関して、英検などの英語外部試験で優秀な成績を収めている場合、成績証明書を添付して提出することで審査の優遇を受けることができます。
- ②入学試験の成績が特に優秀な者

第1回 オープンスクール 平成28年9月4日(日) 10:00～
～皇學館を楽しもう～ ●体験授業 ●部活見学 ●校舎見学 ●学校説明 など

授業公開デー2016 平成28年11月5日(土) 9:30～
～皇學館を知ろう～(学校説明会) ●授業公開 ●学校説明 ●入試説明 など

第2回 オープンスクール 平成28年11月27日(日) 9:30～
～皇學館で学ぼう～ ●学校説明 ●入試説明 ●入学試験対策授業 など

皇學館

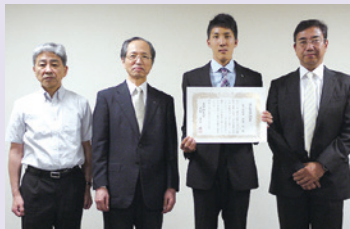
Pick up

年々、学生・生徒の活躍の場が広がっている皇學館。今回は、全国を舞台にめざましい成果を上げているクラブ活動(大学)と先駆的な取組みで学内外の教育関係者から注目を集める国際交流事例(中学校)を取り上げます。



団体「陸上競技部・駅伝競走部」・「柔道部」と個人陸上競技部衛藤将君に学長奨励賞授与

7月19日と28日に学長奨励賞授与式が執り行われ、「陸上競技部・駅伝競走部」「柔道部」と走高跳の衛藤将君(2年・教育)に学長奨励賞が授与された。清水潔学長は「大学の設備や練習環境が必ずしも十分ではない中、個人個人が厳しい練習を積み重ね、今回の成果を手にしたことは、称賛に値する。これを機にさらに精進し、活躍してほしい」と激励した。駅伝競走部委員長の山本拓音君(4年・教育)は「このような名誉ある賞をいただけて大変嬉しい。12月の東海学生駅伝ではよい結果を出し、駅伝競走部が東海地区の代表となれるよう、さらに練習を頑張りたい」と気合十分に、衛藤君も「さらなる筋力アップや技術向上を図り、日本選手権に出場したい」と意気込みを見せた。



栄えある受賞に表情を引き締める受賞者。上から、陸上競技部・駅伝競走部、柔道部、陸上競技部 衛藤将君

東海インカレで男子が初の総合3位、日本学生個人・衛藤将君が走高跳で7位

陸上競技部・駅伝競走部

東海地区最大の大学対校戦である第82回東海学陸上競技対校選手権大会が5月13日から15日にかけて名古屋市のパロマ瑞穂スタジアム・パロマ瑞穂北陸上競技場で開催された。風向きが不安定で、時おり強い風が吹き、気温も大きく変動する難しいコンディションの中、男子は初の総合3位、女子は総合6位と大健闘。他の強豪大学に比べ圧倒的に部員数が少なく、決して恵まれているとはいえないグラウンド環境を踏まえると驚くべき快挙だ。同部委員長の中山真也君は「小木曾先生指導のもと、日々練習を頑張ってきた。しかし先生の指示通りに漫然と練習をこなすだけでは強くなれない。今後は、練習の意味や先生の指示の意図するところを自分たちでしっかり考えながら練習を積み重ね、さらに上位をめざしたい」と語る。なお、本大会では非常に多くの学生が自己記録を更新した。とりわけ、男子三段跳で本学新記録・自己新記録をマークして優勝した松葉大和君(3年・教育)は、9月に熊谷市で開催される学生陸上競技の最高峰・日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)に東海学生チャンピオンとして、すでに十種競技で出場を決めている乾颯人君(2年・教育)とともに出場することになった。



また、6月10日から12日にかけて Shonan BMW 平塚スタジアムで催された「2016日本学生陸上競技個人選手権大会」に本学からは前述の松葉君、男子走高跳に衛藤将君(2年・教育)、男子砲丸投に井豫規人君(1年・教育)が出場。衛藤君は自己タイ記録の2m10cmを跳び、見事7位に入賞した。これは三重県歴代8位の記録。本学のフィールド種目で初の全国入賞だ。それぞれの今後の活躍が楽しみだ。

クラブ活動 | 大学

全国大会に男女で2年連続出場。男子は強豪・中央大に勝利

柔道部

6月25日、26日に日本武道館にて行われた全日本学生柔道優勝大会に本学柔道部(男女)が出場。女子は今大会の優勝校である早稲田大学に0対2で1回戦敗退、男子は強豪・中央大学を2対1で制し2回戦に進出する活躍を見せた。2回戦では入賞校の國學院大学に敗れたものの、創部111年を数える中央大学に勝利したことは大きな自信となったといえよう。昨年度負けた悔しさを忘れずに男女揃って入賞できるよう、この1年間、「どのチームにも負けない血の滲むような厳しい稽古」を経て大会に臨んだという主将の花田健悟君。「全国の舞台で上位を狙うには何が必要か肌で感じる事ができた」とも語り、今大会を通じて得たものは大きかったようだ。顧問の佐藤武尊先生も学生たちの頑張りを労いつつ、「課題が見つかるとともに収穫も大きかった意義深い大会。今後はさらに精進していきたい」とさらなるステップアップを誓う。今後の前進に注目だ。



形の部で男子団体優勝、女子団体準優勝。謙虚に学ぶ姿勢、実を結ぶ

空手部

6月5日に行われた第59回東海地区空手道選手権大会において本学空手部が[形の部]で男子団体戦優勝、女子団体戦準優勝、[組手の部]で男子団体戦優勝、女子団体戦3位という好成績をおさめた。



選手のひとり「スポーツ界は低年齢化が進み、高校や大学から新しいスポーツに挑戦しようとする人にとって結果を残すことが厳しい環境になっている。しかし、こうしたことを言い訳にせず、常に目標を高く持ち、勝ちにこだわってきた」とコメント。その上で、「もちろん、勝ち負けだけではなく、礼儀作法など武道を志すにふさわしい精神性も磨いてきた。空手歴の長短に関わらず、どの部員も自ら学ぶ姿勢で日々謙虚に稽古に励んできたことが今回の優勝、準優勝につながったのではないかと分析。「今回の結果に満足するのではなく、今後も精進していきたい」と抱負を語った。

男子団体メンバー

形	角田 裕也(4年・コミュ)	山口 功晟(4年・国史)
	柴原 烈(2年・コミュ)	
組手	角田 裕也(4年・コミュ)	山口 功晟(4年・国史)
	村瀬 隼大(2年・コミュ)	

女子団体メンバー

形・組手	池田 華(3年・国文)	佐藤 真珠(2年・国文)
	市川 紫野(1年・国史)	

皇高 NEWS



賞状と楯を手に喜びの表情

男子が県総体で総合5位

五月二十八日から三十日に行われた平成二十八年度第十六回三重県高等学校総合体育大会において本校男子が総合五位を受賞した。同大会には三十六競技に県内の高校約八十校から約一万六千名の生徒が参加し熱戦を繰り広げた。本校は全日制男子の部で五十一・五点を上げ総合五位を受賞。また柔道部、バドミントン部が優秀な成績を収め全国大会に進出した。文化クラブでは写真部が全国高校総



進めるのは、東海

柔道二年宮本やほさんが全国大会へ
全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

九月十日に埼玉県立武道館で開催される全日本ジュニア柔道体重別選手権大会に本校一年四組の宮本やほさんが出場する。同大会に進めるのは、東海

合文化祭に出場する。全国大会でも普段の実力を十分発揮し、立派な成果を上げてほしい。

初の試み「担任懇談会」が好評

保護者対象進路説明会



熱心に説明を聞く保護者の方々

三年生の保護者を対象にした進路説明会が五月七日土曜日の午後、開催された。ご多忙中にも関わらず、百五十名を超える多くの保護者の皆様に参加していただき、有意義な説明会となった。

第一部は、進研アドの河野政文氏が「大学入試の現状と保護者様の役割」と題し講演を行った。受験生が保護者に望むことや大学受験の流れなどについて、最新のデータを元にしたお話はとても興味深

いものであった。第二部では、進路指導部より昨年度の本校の入試実績や志望の傾向等について、また学年主任からは遠足や放課後などの学校生活について報告させていただいた。本年度は初の試みとして、保護者の皆様に各教室へ移動していただき、クラス別で担任との懇談会を開催した。長時間に及ぶ進路説明会ではあったが、遅くまで熱心に担任に相談される保護者の方が多く見えに

また六月四日には一・二年生の保護者対象進路説明会を開催し、二百名を超える保護者の皆様に参加していただいた。三年生と同様に進路指導部より昨年度の入試実績等の報告に続いて各学年主任より学校生活の報告やそれぞれの学年の今後の進路行事についての説明を行った。説明会終了後も担任に相談する保護者の方が多数見られ、有意義な進路説明会となった。

皇學館高校生としての自覚を
校友会総会

五月十九日に開催された今年度の校友会総会。総会には会員である全校生徒と先生方

プレーも応援も全力で

クラスマッチ

七月十四日・十五日の二日間、ソフトバレーボールとソフトボールの二種目に分かれ

クラスマッチが行われた。両日ともとても暑い日であったが、生徒たちはクラスごとに

で闘った。新総務委員長の山本瑠香さんは「校友会役員として初めて行事を運営する立場になってみて、一つの行事を成し遂げるには本当に多くの力と時間が必要だということに改めて感じた」と感想を述べた。なお、ソフトバレーボールは三年八組が優勝した。



全力で闘う生徒たち

同じ色のTシャツを着用して団結し、暑さに負けない熱い声援が響く中、全力

前総務副委員長 村木彩里

が参加し、会費の使い方と分配の仕方を審議し決定する。今年度は生徒全員が校友会員であるという意識を持つてもらうため、会計報告の作業を校友会役員ではない一般生徒が中心となって進めた。

今後は生徒の一人ひとりが校友会や校友会総会の意味と大切さを理解し、よりよい学校にするために皇學館高校生としての自覚を持ち続けてほしい。積極的に参加し、活発な意見を出してもらうことで校友会の活動も一層有意義になっていくと思う。

皇中 NEWS



身近な存在である先輩の話を静かに拝聴

卒業生四名が教育実習

六月十三日から七月二日にかけての三週間、本校の卒業生四名が教育実習を行った。当初、自分たちとは十歳近く年の離れた現代の中学生に対し、教員の立場でどのように接すべきなのか、ためらう姿があった。しかし、指導教員のサポートを受けながら、少しずつ生徒たちとの間合いも

決める必要はないといった人生の先輩としての熱いメッセージが切々と語られ、生徒たちは実習生たちの話にじっと聞き入っていた。三週間という限られた期間ではあったが、教育実践の場において各実習生たちは貴重な経験を積み上げ、教員にふさわしい資質を養う大切な機会を得た。この体験が今後どのような形で実を結ぶか、楽しみだ。

「協調性」を学んだ、ともやま研修

一年生三十七名が六月二十三日から二十四日にかけて、一泊二日の日程で「ともやま公園キャンプ村」へ宿泊研修に行った。以下に生徒の感想を紹介する。



全体を考える意識が身に付いた

一年A組 河村隆雅

あつという間であった二日間の宿泊研修はこれまでになく貴重な時間でした。理由は、どれくらい協力してどのようなことを考えるべきか、学べたからです。カレーライス作りや部屋の準備、片付け、スポーツレクリエーションは全体が協力しないと成り立たないので、ばくは自分だけではなく全員のことを考えることを意識しました。カレー作りはみんなが協力できたからこそおいしくできたのだ

「勝つ」という気持ちが大事」

スポーツ大会



おいしそうなカレーを前にピース!

七月一日に行われたスポーツ大会で、私たちのクラスは二組がリーグ優勝し、総合でも優勝することができました。それには理由があると私は思います。

一つ目は勝とうという気持ちです。自分はもちろん、クラスのみんなも勝ちたいという強い思いを持っていて、当日はみんな真剣にプレーに臨みました。二つ目は声出し、応援です。円陣を組んだ時の



勝利の鍵はチームワーク!



応援の音が響いた体育館

声が大きく、「頑張れ」「いけるよ」と励ましたり、失敗した時も「大丈夫」などと声を掛け合いました。三つ目は団結心です。学校行事はみんなが参加するので、もし一人ですべてをやろうと思っていたら優勝できなかったと思います。今回、総合優勝できてとて

も嬉しかったです。これからも前向きな気持ちや声掛け、さらに団結心を大切にしていろいろな場で活躍していきます。

三年A組 西村梨花

成功は一人ひとりの協力あつてこそ

一年B組 近藤智郁



力をあわせてシーカヤック漕ぎ

この二日間、自然を体感し、いろいろなことを学びました。シーカヤックでは二人の力が合わさるからこそ一艘のカヤックが動き、カレー作りでは班全員が与えられた役割を確実に丁寧にこなすことで、一つのおいしいカレーが出来上がるのです。つまり一人ひとりの協力が一つの成功に導くのだと思いました。先生が言われていた「協調性」をいつでもこれからの生活に

生かせていきたいなと思いました。この二日間、とても楽しかったです。

平成27年度 収 支 決 算 報 告

学校法人皇學館の平成27年度決算は、平成28年 5 月30日開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を公表します。

なお、公式ホームページ (http://www.kogakkan-u.ac.jp)の大学概要に掲載されているIR 情報「事業報告平成27年度」にて教育研究機関・事務組織・入学生数・在籍者数・卒業生数・進路(就職)状況及び法人の事業実績、財務の概要説明等を公開しておりますので、併せてご覧ください。

平成27年度収支決算書は、以下のとおりです。

1 資金収支計算書

この計算書は、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度教育研究活動及びその活動に付随する全ての資金の動きと内容を明らかにすることを目的としています。

資金収支計算書(法人全体)

平成27年 4 月 1 日から平成28年 3 月31日					単位：千円
科 目		予 算	決 算	差 異	
●収入の部					
学生生徒等納付金収入	3,816,952	3,847,337	△30,385		
手数料収入	77,118	77,617	△499		
寄付金収入	106,066	141,372	△35,306		
補助金収入	709,898	661,066	48,831		
資産売却収入	0	200,000	△200,000		
付随事業・収益事業収入	27,888	30,980	△3,092		
受取利息・配当金収入	12,465	18,209	△5,744		
雑収入	190,736	253,769	△63,033		
借入金等収入	0	0	0		
前受金収入	634,713	720,386	△85,673		
その他の収入	188,893	187,288	1,605		
資金収入調整勘定	△858,521	△909,908	51,386		
当年度資金収入合計	① 4,906,207	5,228,119	△321,911		
前年度繰越支払資金	2,081,630	2,081,630			
収入の部合計	6,987,837	7,309,749	△321,911		

●支出の部					
人件費支出	2,678,509	2,671,187	7,321		
教育研究経費支出	934,514	921,504	13,009		
管理経費支出	453,840	457,874	△4,034		
借入金等利息支出	3,369	3,368	1		
借入金等返済支出	43,750	43,750	0		
施設関係支出	76,750	72,528	4,221		
設備関係支出	297,072	254,226	42,845		
資産運用支出	521,516	743,582	△222,066		
その他の支出	122,718	129,432	△6,713		
[予備費]	(0) 20,000		20,000		
資金支出調整勘定	△142,023	△187,460	45,437		
当年度資金支出合計	② 5,010,016	5,109,995	△99,979		
翌年度繰越支払資金	1,977,821	2,199,754	△221,932		
支出の部合計	6,987,837	7,309,749	△321,911		
当年度資金収支差額	①－②	△103,809	118,124	△221,932	

2 事業活動収支計算書

この計算書は、企業会計における損益計算書にあたるもので、学園の経営状況を表し、平成27年度における事業活動収支の均衡状況とその内容を明らかにするものです。平成27年度決算から学校法人会計基準の一部改正に伴い、従前の消費収支計算書が変更されました。事業活動収支を「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」に区分し、企業会計により近い形式となりました。

事業活動収支計算書(法人全体)

平成27年 4 月 1 日から平成28年 3 月31日					単位：千円
科 目		予 算	決 算	差 異	
教育活動収支	事業活動収入の部				
	学生生徒等納付金	3,816,952	3,847,337	△30,385	
	手数料	77,118	77,617	△499	
	寄付金	106,066	115,325	△9,259	
	経常費等補助金	688,245	628,758	59,486	
	付随事業収入	27,888	30,343	△2,455	
	雑収入	222,003	284,971	△62,968	
	教育活動収入計	4,938,272	4,984,353	△46,081	
	事業活動支出の部				
	人件費(退職給与引当金繰入額)	2,653,507(19,908)	2,647,585(21,666)	5,921(△1,758)	
教育活動外収支	教育研究経費(減価償却額)	1,456,589(522,075)	1,473,143(545,426)	△16,554(△23,351)	
	管理経費(減価償却額)	478,214(24,374)	487,602(29,728)	△9,388(△5,354)	
	徴収不能額等	0	0	0	
	教育活動支出計	4,588,310	4,608,331	△20,021	
	教育活動収支差額	349,962	376,022	△26,060	
	事業活動収入の部				
	受取利息・配当金	12,465	18,209	△5,744	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入計	12,465	18,209	△5,744	
	事業活動支出の部				
	借入金等利息	3,369	3,368	1	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	
	教育活動外支出計	3,369	3,368	1	
	教育活動外収支差額	9,096	14,840	△5,744	
経常収支差額		359,058	390,862	△31,804	

特別収支	事業活動収入の部				
	資産売却差額	200	200	0	
	その他の特別収入	29,153	90,029	△60,876	
	特別収入計	29,353	90,229	△60,876	
特別収支	事業活動支出の部				
	資産処分差額	28,553	28,905	△352	
	その他の特別支出	0	0	0	
	特別支出計	28,553	28,905	△352	
特別収支差額		800	61,324	△60,524	
[予備費]		20,000		20,000	
基本金組入前当年度収支差額		339,858	452,186	△112,328	
基本金組入額合計		△165,878	△120,921	△44,956	
当年度収支差額		173,980	331,265	△157,285	
前年度繰越収支差額		△3,946,324	△3,946,324	0	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△3,772,344	△3,615,059	△157,285	
【参考】					
事業活動収入計		4,980,090	5,092,792	△112,702	
事業活動支出計(予備費含む)		4,640,232	4,640,605	△373	

3 貸借対照表

この計算書は、決算日における資産及び負債、純資産の内容及び在り高を明示し、学校法人の財政状態を明らかにすることを目的としています。なお、学校法人会計基準の一部改正により、固定資産の中科目として「特定資産」が追加されています。

貸借対照表

平成28年 3 月31日					単位：千円
科 目		本年度末	前年度末	増 減	
●資産の部					
固定資産		16,289,225	16,028,963	260,261	
有形固定資産		12,787,494	13,039,210	△251,715	
土地		551,349	551,349	0	
建物		8,806,044	9,103,563	△297,518	
構築物		604,660	637,539	△32,878	
教育研究用機器備品		770,409	785,309	△14,900	
管理用機器備品		121,739	76,572	45,167	
図書		1,907,809	1,876,115	31,693	
車両		25,481	8,760	16,720	
特定資産		3,465,807	2,952,181	513,626	
第 3 号基本金引当特定資産		124,040	116,040	8,000	
退職給与引当特定資産		1,233,365	1,233,365	0	
施設維持引当特定資産		928,674	628,674	300,000	
学園財政調整引当特定資産		500,000	300,000	200,000	
学生寮施設維持引当特定資産		117,532	111,680	5,852	
教学振興基金引当特定資産		150,000	150,000	0	
篠田学術振興基金引当特定資産		70,581	67,336	3,245	
津田学術振興基金引当特定資産		322,435	323,708	△1,272	
奨学金引当特定資産		19,178	21,376	△2,198	
その他の固定資産		35,923	37,572	△1,648	
電話加入権		3,959	3,959	0	
有価証券		9,596	9,596	0	
敷金		5,620	5,620	0	
差入保証金		4,960	4,960	0	
預託金		10,000	10,000	0	
長期貸付金		1,788	3,437	△1,648	
流動資産		2,779,512	2,675,758	103,754	
現金預金		2,199,754	2,081,630	118,124	
補助活動支払資金		307,809	292,431	15,377	
研修旅行費等預り資産		128,053	123,300	4,752	
未収入金		140,832	174,649	△33,817	
販売用品		1,414	2,050	△636	
短期貸付金		1,648	1,638	10	
立替金		1	56	△56	
資産の部合計		19,068,738	18,704,722	364,016	

●負債の部

固定負債		1,394,455	1,462,070	△67,615	
長期借入金		87,500	131,250	△43,750	
退職給与引当金		1,146,291	1,201,096	△54,804	
長期未払金		160,664	129,724	30,939	
流動負債		1,139,142	1,159,698	△20,555	
短期借入金		43,750	43,750	0	
未払金		156,520	118,677	37,842	
前受金		720,386	769,075	△48,689	
預り金		218,485	228,194	△9,708	
負債の部合計		2,533,598	2,621,769	△88,170	

●純資産の部

基本金		20,150,199	20,029,277	120,921	
第 1 号基本金		19,632,159	19,519,237	112,921	
第 3 号基本金		124,040	116,040	8,000	
第 4 号基本金		394,000	394,000	0	
繰越収支差額		△3,615,059	△3,946,324	331,265	
翌年度繰越収支差額		△3,615,059	△3,946,324	331,265	
純資産の部合計		16,535,139	16,082,952	452,186	
負債及び純資産の部合計		19,068,738	18,704,722	364,016	

- 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。
- 貸借対照表の注記は省略しています。

●**専の会総会**
翌五日には本学記念講堂において専の会総会が開催され、文学部一四六名、教育学部一一七名、現

●**専の会役員会**
六月四日、午後三時より伊勢シテイホテルにおいて専の会の役員会が開催され、全国からお集まりいただいた役員五十九名と本学教職員十五名で総会に諮るべき議事が審議された。

平成二十八年度 専の会役員会及び総会報告		代日本社会学部五十四名及び本学大学教職員七十六名が出席。平成二十七年の行事事業報告・決算と平成二十八年度の行		事業計画案・予算案などが審議され、盛会のうちに閉会となった。なお、新役員については左記の方々が選任された。	
会計監査	副会長	会長	役職名	氏名	敬称略
大野 記久啓	笠井 賢一	奥山 宗司	西井 清明	岸田 由岐	内田 大助
見一朗	万由美	玲加	秀次朗	亮太郎	玲奈
神道 3 年	現日 4 年	教育 3 年	コミュ1 年	コミュ3 年	国史 4 年
					教育 4 年

教学振興会 平成27年度 決 算 報 告

ご挨拶
平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。
さて、教学振興会につきましては、多くの方々のご入会、ご支援をいただき、改めまして心から厚く御礼申し上げます。
平成二十七年度も、本学園は教育研究の充実をはじめさまざまな事業を展開して参りました。その中で、教学振興会支援事業は、六つの柱を基軸とし、学生・生徒への修学支援、国際交流活動として海外留学や海外インターシップ、神職育成のための実習等の充実を図り地域社会貢献活動として「伊勢志摩定住自立圏共生学」等に取り組むことが出来ました。ひとえに皆さま方のお力添えによる賜物と感謝申し上げます。更なる本学園への期待に添えるよう、鋭意努力いたす所存でございます。
ここに平成二十七年度の決算をご報告させていただきます。今後とも「教学振興会」への温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教学振興会収支決算書

1 教学振興会募金実績

教学振興会募金は、平成26年度は933件3743万円、27年度は1209件5234万円となり、総額8977万円の募金実績となりました。

収入決算額	(平成26年 9 月 1 日～平成28年 3 月31日迄)	89,770,000円
支出決算額	(平成27年 4 月 1 日～平成28年 3 月31日迄)	29,880,203円

収入の部					平成28年 3 月31日現在
区 分	H26	H27	H26～27合計		
	寄付件数	金額(円)	寄付件数	金額(円)	金額(円)
宗 教 界	186	28,490,000	258	38,610,000	67,100,000
企 業	26	1,360,000	28	1,580,000	2,940,000
館 友	275	2,805,000	250	3,030,000	5,835,000
専 の 会 会 員	219	1,860,000	341	2,500,000	4,360,000
高等学校保護者	81	580,000	96	735,000	1,315,000
中学校保護者	34	280,000	38	295,000	575,000
一 般(篤志家等)	4	120,000	11	3,205,000	3,325,000
教 職 員	108	1,935,000	187	2,385,000	4,320,000
合 計	933	37,430,000	1,209	52,340,000	89,770,000

2 教学支援活動の概要

「未来の日本を担う人材を育成」をするため、平成27年度より、大学・高等学校・中学校において教育研究活動、学生・生徒への修学支援活動、国際交流活動、地域社会貢献活動に充当させていただきました。
主な支援内容は、グローバル人材の育成及び推進事業、キャリア教育(キャリア・コンパス・プログラム他)、英語圏・中国語圏との海外国際交流及び語学研修、皇學館おかげキャンパスプロジェクト、近世神道関係資料の収集、地域課題の解決を目的とした研究推進(「歴史文化観光資源領域」「自然環境定住資源領域」「地域経済・産業領域」「地域福祉・教育資源領域」)、コンソーシアム三重他となります。

イベント情報 (9～10月)

9月	3 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	『日本書紀』を読む 「天照大神・月夜見尊・素戔鳴尊の誕生(2)」 大島信生(文学部教授)		
	10 土	月例文化講座	431教室
	元気なまちのつくり方 千田良仁(教育開発センター准教授)		
10月	10 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	古事記を読み解く―天若日子の叛逆～イワレヒコ誕生の段 「海幸山幸～イワレヒコの誕生」 白山芳太郎(文学部教授)		
	10 土	研究開発推進センター史料編纂所公開講座	佐川記念神道博物館講義室
	邪馬台国の所在地―若井敏明「邪馬台国の滅亡」にふれて― 荊木美行(研究開発推進センター教授・副センター長) 黎明期のヤマト政権 若井敏明(関西大学・佛光大学・神戸市外国語大学等非常勤講師)		
	17 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	1日・短期講習会 桓武天皇と『続日本紀』 遠藤慶太(研究開発推進センター准教授)		
	17 土	研究開発推進センター史料編纂所古文書講座	佐川記念神道博物館講義室
	第1回 近世文書を読む 谷戸佑紀(研究開発推進センター共同研究員)		
	24 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	神道と仏教―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離― 「粉河寺と産土神社における神仏習合と神仏分離」 河野 訓(文学部教授)		
10月	1 土	月例文化講座	431教室
	いらっしゃいませ。商店街のミライ 筒井琢磨(現代日本社会学部教授)		
	1 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	『日本書紀』を読む 素戔鳴尊と天照大神の誓約 大島信生(文学部教授)		
	8 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	古事記を読み解く―神武天皇～孝元天皇の段 「神武天皇(上)」 白山芳太郎(文学部教授)		
	15 土	研究開発推進センター史料編纂所古文書講座	佐川記念神道博物館講義室
	第2回 近世文書を読む 谷戸佑紀(研究開発推進センター共同研究員)		
	15 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	神道と仏教―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離― 「多賀大社における神仏習合と神仏分離」 河野 訓(文学部教授)		
10月	22 土	佐川記念神道博物館教養講座	佐川記念神道博物館講義室
	学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅲ 「伊勢における商人の町 河崎」 西城利夫(伊勢河崎商人館事務局長)		
	22 土	皇學館大学共催講座	近鉄文化サロン阿倍野
	『日本書紀』を読む 「素戔鳴尊の乱行と追放」 大島信生(文学部教授)		
	23 日		431教室
	第17回 高校生英語スピーチコンテスト		
	●各講座の詳細につきましては、 本学ホームページ にてご確認ください。 ●共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、 有料 です。お問い合わせは 近鉄文化サロン阿倍野 (☎06-6625-1771)へお願い致します。 ●佐川記念神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6471へお願い致します。 ●研究開発推進センター史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6462へお願い致します。 ●その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)へお願い致します。		
	編集後記		
	館友の方より、学園報第五十九号に掲載された山室山参拝にまつわる学生の感想が、ご自身で昭和十八年の山室山参拝等で感銘を受けたことと相通じるとして、倉田山での学びを懐かしみ心満ちた」とのお言葉を「館友誌第二十九号」にお寄せいただきました。皇學館の教学・建学の精神が脈々と受け継がれていくことを改めて実感するとともに、本紙の役割・使命の重さを噛みしめ、より充実した紙面にすべく邁進していく所存です。皆さまの層のご支援とご愛読を心よりお願い申し上げます。【企画部】		
	六十人の親子が和紙で豆本づくり		



和紙ならではの手触りを楽しみながら、豆本の手作りに挑戦

今回は「神宮の博物館で豆本をつくらう」と題し、大豊和紙工業株式会社の協力、伊勢和紙館スタッフ指導のもと、和紙を使った豆本づくりを行った。参加者は和紙の手触

りを感じながらそれぞれ作品を仕上げた。また、休憩の後には神宮徴古館学芸員の指導で拓本(乾拓)にも挑戦。館外に出て、拓本に採られた「徴」「美」「農」の文字を探して神宮徴古館・美術館・農業館をめぐる、農業館の館内も見学。徴古館に戻ってから、各自持参した硬貨・メダルや、外で拾った落ち葉などを、それぞれ拓本に採った。二日間、十七組六十人の親子が参加し、それぞれ、日本の伝統工芸である和紙や拓本に触れ、体験を通して日本の「心」について理解を深めることができたようである。

4チームを採択

平成28年度
チャレンジプロジェクト
公開プレゼン

平成28年度 チャレンジプロジェクト企画

代 表	概 要
【地域との連携】三重県総合博物館及び名古屋市科学館での理科実験教室、生命ラボの実施	
松 谷 広 志 教育学研究科教育学専攻 修士課程1年	皇學館大学で開発した実験教材を使用して、名古屋科学館や三重県総合博物館で来場者に実験観察を行ってもらう機会を提供する。
【地域との連携】宇治山田プロジェクト	
御 邊 健 一 郎 現代日本社会学科2年	伊勢茶から作る「和紅茶」の販売・PR活動を行うことで県内外の方に伊勢茶に興味を持っていただき、三重県に足を運んでいただくきっかけにする。
【地域との連携】伊勢・本のまちプロジェクト～伊勢河崎一箱古本市とビブリオバトル～	
坪 井 あ み 国文学科3年	各地で本を介したコミュニティづくりを目的に開催されている一箱古本市とビブリオバトルの二つの取り組みを、「河崎商人市」を舞台として開催し、地元のお祭りを盛り上げるための地域連携事業として位置づけていく。
【地域との連携】地元の食材を知ろう・作ろう・食べようプロジェクト	
岡 村 麻 里 矢 教育学科3年	地域食材を用いることで子どもの地域食材に対する関心度を高め、地域食材の良さに気づかせる。また、地域食材を使っている業者とも将来的に連携して地域活性化につなげていく。

屋市科学館、そして新たに三重県総合博物館の来場者に実験観察の機会を提供する。同じく「宇治山田プロジェクト」は伊勢茶で作った和紅茶の販売・PRを行う。

約10名の学生が地元ケーブルテレビ局と共同でドキュメンタリー番組を中心に制作している

◆大学生テレビ制作番組(ドキュメンタリー)一覧

公開月	回	番組タイトル
平成26年度		
4月	1	御頭神事の伝統
5月	2	融合の美
6月	3	ジャズと私と河崎と
7月	4	チンチン電車の走った道
8月	5	野球の聖地伊勢～神宮から神宮へ～
9月	6	潮騒の島を訪ねて～鳥羽市神島～
10月	7	伊勢のしめ縄
11月	8	倉陵祭の軌跡
12月	9	雅想咲 笑顔の華ーよさこい部`12代目雅`の挑戦
平成27年度		
1月	10	感謝の祈りは誰にでも～車椅子の神宮参拝～
2月	11	やわらかうどん新時代
3月	12	ゲーター祭の朝～鳥羽市神島の年越～
4月	13	旅立ちの倉田山
5月	14	伊勢のお餅
6月	15	フィギア社長の挑戦!!
7月	16	心の港 鳥羽のまち
8月	17	伊勢からの学徒出陣～戦後七十年に先輩を偲ぶ～
9月	18	風の島に夏が来て～昔島・しろんご祭りの頃～
10月	19	宇治島居前繁盛録～おほらい町・おかげ横丁～
11月	20	伊勢音頭 時をこえ海を越え～愛媛県西条まつり～
12月	21	からあげ井の詩
平成28年度		
1月	22	潮汐の湯
2月	23	伊勢から薫る御茶の風
3月	24	学生ミュージカル30年
4月	25	志摩半島の海女文化
5月	26	伊勢の桜紀行【未公開】

夏休み親子教室

成七年度から始まり今年で二十二回目。日本の伝統文化や郷土文化に関する体験を通して日本人の感性や心を学ぶことを目的としており、毎年多くの親子が参加し、好評をいただいている。

来年度は、伊勢の歴史や文化をテーマにしたドキュメンタリー番組の制作を目指す。また、伊勢の歴史や文化をテーマにしたドキュメンタリー番組の制作を目指す。



約10名の学生が地元ケーブルテレビ局と共同でドキュメンタリー番組を中心に制作している

◆大学生テレビ制作番組(ドキュメンタリー)一覧

公開月	回	番組タイトル
平成26年度		
4月	1	御頭神事の伝統
5月	2	融合の美
6月	3	ジャズと私と河崎と
7月	4	チンチン電車の走った道
8月	5	野球の聖地伊勢～神宮から神宮へ～
9月	6	潮騒の島を訪ねて～鳥羽市神島～
10月	7	伊勢のしめ縄
11月	8	倉陵祭の軌跡
12月	9	雅想咲 笑顔の華ーよさこい部`12代目雅`の挑戦
平成27年度		
1月	10	感謝の祈りは誰にでも～車椅子の神宮参拝～
2月	11	やわらかうどん新時代
3月	12	ゲーター祭の朝～鳥羽市神島の年越～
4月	13	旅立ちの倉田山
5月	14	伊勢のお餅
6月	15	フィギア社長の挑戦!!
7月	16	心の港 鳥羽のまち
8月	17	伊勢からの学徒出陣～戦後七十年に先輩を偲ぶ～
9月	18	風の島に夏が来て～昔島・しろんご祭りの頃～
10月	19	宇治島居前繁盛録～おほらい町・おかげ横丁～
11月	20	伊勢音頭 時をこえ海を越え～愛媛県西条まつり～
12月	21	からあげ井の詩
平成28年度		
1月	22	潮汐の湯
2月	23	伊勢から薫る御茶の風
3月	24	学生ミュージカル30年
4月	25	志摩半島の海女文化
5月	26	伊勢の桜紀行【未公開】

夏休み親子教室

成七年度から始まり今年で二十二回目。日本の伝統文化や郷土文化に関する体験を通して日本人の感性や心を学ぶことを目的としており、毎年多くの親子が参加し、好評をいただいている。

来年度は、伊勢の歴史や文化をテーマにしたドキュメンタリー番組の制作を目指す。また、伊勢の歴史や文化をテーマにしたドキュメンタリー番組の制作を目指す。



企画の意義を発表する参加者

地域連携や学内活性化を目的とした優れた取組に最大二十万円の活動支援金が支給される「チャレンジプロジェクト」の公開プレゼンが六月三十日に行われ、過去最多の十チームが臨んだ。審査員は、これまでの活動実績や成果の還元方

法、また、企画に対して経費が適切か、等の観点から厳正に検討した結果、四プロジェクト(左上の表参照)を採択。支援金の交付が決まった。

学生ならではの視点で地域の魅力を掘り起こし、発信しようと平成二十六年四月に開局した大學生テレビ局。制作した番組は地元ケーブルテレ

ビ局から「皇學館大学TV」とのタイトルで毎月放映されている。これまでに手掛けた作品は、ドキュメントやインタビューを中心に四十を超え

(左下の表参照、視聴者の評判も上々だ。「地域が元気になって、地元の人々が喜んでくれる。それが番組づくりのゴール」と話すのは現代

日本社会学科一年の木村太紀君。以前よりフットワークが軽くなったと言

「いずれは神戸が伊勢に戻り、地域を元気にする仕事に携わる」ことが将

来年度は、伊勢の歴史や文化をテーマにしたドキュメンタリー番組の制作を目指す。また、伊勢の歴史や文化をテーマにしたドキュメンタリー番組の制作を目指す。

局開3年目

学生の成長の場にも
皇學館大学 大学生テレビ局